

修士論文（要旨）
2022年1月

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況下における若年非正規雇用労働者および正規
雇用労働者のメンタルヘルスに関する比較

指導 種市 康太郎 教授

心理学研究科
臨床心理学専攻
220J4009
藤田 真帆

Master's Thesis (Abstract)
January 2022

A comparison of mental health between young non-regular and regular workers
under spreading COVID-19 infection

Maho Fujita

220J4009

Master's Program in Clinical Psychology

Graduate School of Psychology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Kotaro Taneichi

目次

第1章 序.....	1
1-1. 働き方の現状.....	1
1-2. 非正規雇用者のメンタルヘルス.....	1
1-3. 職の不安定性 (job insecurity)	3
1-4. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響.....	4
第2章 目的と意義.....	9
2-1. 目的.....	9
2-2. 仮説.....	9
2-3. 研究意義.....	9
第3章 方法.....	10
3-1. 調査期間.....	10
3-2. 調査対象者.....	10
3-3. 調査手続き.....	10
3-4. 調査用紙.....	10
3-5. 倫理的配慮.....	11
3-6. 分析方法.....	11
第4章 結果.....	13
4-1. 対象者の基本属性.....	13
4-2. 雇用形態および時期による平均値の差の検討.....	15
4-3. ストレスとメンタルヘルスに関する相関.....	19
4-3-1. ストレスとメンタルヘルスに関する内部相関.....	19
4-3-2-1. 「仕事の負担」と「仕事の資源」に関する尺度間相関.....	22
4-3-2-2. 「仕事の負担」と「心身の健康」および「アウトカム」に関する尺度間相関.....	24
4-3-2-3. 「仕事の資源 (作業レベル) 」と「心身の健康」および「アウトカム」に関する尺度間相関.....	25
4-4. 雇用形態理由、労働時間および収入の変化とメンタルヘルスとの順位相関.....	30
4-4-1. 雇用形態理由、労働時間、収入の変化の内部相関 (順位相関)	31
4-4-2-1. 雇用形態理由、労働時間、収入の変化と「仕事の負担」の順位相関.....	32
4-4-2-2. 雇用形態理由、労働時間、収入の変化と「仕事の資源」の順位相関.....	33
4-4-2-3. 雇用形態理由、労働時間、収入の変化と「心身の健康」、 「アウトカム」の順位相関.....	34
第5章 考察.....	36
5-1. 本研究の趣旨.....	36
5-2. 雇用形態および時期による平均値の差の検討.....	36

5-3-1. ストレスとメンタルヘルスに関する内部相関.....	39
5-3-2-1. 「仕事の負担」と「仕事の資源」に関する尺度間相関.....	40
5-3-2-2. 「仕事の負担」と「心身の健康」および「アウトカム」に関する尺度間相関.....	40
5-3-2-3. 「仕事の資源」と「心身の健康」および「アウトカム」に関する尺度間相関.....	41
5-4-1. 雇用形態理由, 労働時間, 収入の変化の関連について.....	41
5-4-2-1. 雇用形態理由, 労働時間, 収入の変化と「仕事の負担」の関連について.....	42
5-4-2-2. 雇用形態理由, 労働時間, 収入の変化と「仕事の資源」の関連について.....	43
5-4-2-3. 雇用形態理由, 労働時間, 収入の変化と「心身の健康」, 「アウトカム」の 関連.....	43
第6章 おわりに.....	45
6-1. まとめ.....	45
6-2. 今後の課題.....	45
謝辞.....	46
引用文献.....	I
資料.....	-1-

第1章 序

近年、働き方の多様化が進む中、非正規雇用者が増加傾向にあり、雇用者全体の37.2%を占めている（厚生労働省、2020）。中でも、若年の非正規雇用者は長期的に増加傾向にあり、若年において非正規労働者として働くことはありふれた出来事となっている（平野、2019）。こうした変化は、生活スタイルに合わせた働き方を可能にすると考えられる一方、安定した雇用が確保できないことが課題となる。

堤他（2015）の行った研究では、日本の労働者において、低収入はメンタルヘルス不調と関連しており、その関連性の一部を職の不安定性が説明することが明らかにされた。職の流動が「あたりまえ」でなかった日本では、再就職の見通しが乏しく、職の不安定性は、労働者に大きな心理的負荷を生じさせている可能性がある指摘している（堤他、2015）。

さまざまな政策が行われる中、コロナ禍によって、さらに雇用が不安定な状況が発生した。厚生労働省（2021）によると、2021年12月10日時点では、コロナ禍の影響により解雇や雇止めなどで仕事を失う見込みのある労働者数は12万2526人にのぼった。うち非正規雇用者数は5万5629人であり（厚生労働省、2021）、2020年は非正規雇用者数が2009年以来11年ぶりの減少となった（総務省、2021）。こうした雇用の先行きへの不安の高まりは、労働者の精神的健康に多大なる影響を及ぼすと考えられる。

第2章 目的

本研究では、若年非正規雇用者のストレスとメンタルヘルスの関係に関して、「職の不安定性」という視点を加え、正規雇用者と比較検討することを目的とする。

さらに、2018年の若年非正規雇用者に関する新職業性ストレス簡易調査票のデータ（切明、2019）と、新型コロナウイルス感染拡大の第3波と言われた2020年12月に調査したデータを比較し、その特徴を明らかにすることを目的とする。

第3章 方法

本研究は、桜美林大学研究倫理委員会の承諾（承認番号20037）後、Web調査会社に調査を委託し、2020年12月24日-2021年1月4日の間にWeb調査を行った。対象者は、全国の若年（18-34歳）非正規、正規それぞれ400名ずつを目標として調査を依頼し、最終的には計1282名（正規雇用者648名、非正規雇用者634名）から回答が得られた。

調査用紙には、新職業性ストレス簡易調査票（川上、2009）と職の不安定性に関する調査票（堤他、2015）を使用した。

Web調査会社から納品されたデータのうち、複数回にわたり回答している者や、逆転項目を含む下位尺度に対して全項目に同じ回答番号に回答している者は無効とし、分析対象から除外した。その後、目標調査対象人数を上回るセルもあったため、切明（2019）における研究データと比率を揃えるための再調整を行った結果、分析対象者は計880名（正規440名、非正規440名）となった。

第4章 結果

雇用形態、時期の2要因による分散分析の結果、多くの尺度で雇用形態の主効果が有意であり、非正規雇用者は正規雇用者と比べ、仕事の負担、職場のハラスメント、ストレス反応は少ないが、仕事の資源も少なく、ワーク・エンゲイジメント、満足度が低いことが示された。時期の主効果も有意であったが、多くの尺度で2020年が2018年に比べて良好であることが示された。交互作用は限定的であった。

尺度間の相関においては、正規雇用者・非正規雇用者の結果が概ね同様の傾向であることが示された。他方、仕事の資源と心身の健康との関連では、正規雇用者のみ、有意な正の関連が示された。

雇用形態理由、労働時間および収入の変化とメンタルヘルスの関連においては、正規雇用者・非正規雇用者ともに、収入の減少が大きい場合に、仕事の負担やストレス反応が多くなる、すなわち、不良な状態となることが示された。また、正規雇用者においては、労働時間が長い場合に、仕事の負担が多くなる傾向にあり、非正規雇用者においては、不本意就業である場合に、職の不安定性が高く、仕事の資源やワーク・エンゲイジメントや満足度が低い傾向が示された。

第5章 考察

本研究では、若年非正規雇用者のストレスとメンタルヘルスの関係に関して、「職の不安定性」という視点を加え、正規雇用者と比較検討することを目的とした。さらに、2018年の若年非正規雇用者に関する新職業性ストレス簡易調査票のデータ（切明，2019）と、新型コロナウイルス感染症の感染拡大第3波と言われた2020年12月に調査したデータを比較し、その特徴を明らかにすることを目的とした。

仮説検証の点からは、非正規雇用者の仕事の負担やストレス反応は少ないが、仕事の資源、ワーク・エンゲイジメント等も少ないという傾向は両時期ともに認められた。これらは、非正規雇用の職務特性が反映されたものと推測される。他方、全体的には2020年が2018年に比べて良好な状態を示した。このことには、コロナ禍においても雇用され続けている者を対象にしていること、労働者のメンタルヘルス改善やコロナ禍によるポジティブな変化、調査時期による影響が考えられた。さらに、労働者全体ではコロナ禍でも負担やストレス反応は必ずしも悪化しているとは言えないが、尺度間相関から、職の不安定性を感じている場合には、ストレス反応が高い傾向があることが明らかとなった。この結果は、堤他

（2015）の、日本の労働者において、低収入はメンタルヘルス不調と関連しており、その関連性の一部を職の不安定性が説明するとの指摘を支持するものとなった。

また、雇用形態理由、労働時間および収入の変化とメンタルヘルスの関連からは、正規雇用者において、労働時間が長い場合に、仕事の負担が多くなる傾向にあることが示され、長年、指摘され続けている正規雇用者特有の長時間労働の問題が浮き彫りになった。非正規雇用者においては、不本意就業である場合に、職の不安定性が高く、仕事の資源やワーク・エンゲイジメントや満足度が低い傾向が示された。

引用文献

- 天池雅彦(2019). ワーク・エンゲイジメントを高める心理的・環境的要因に関する研究－媒介要因に着目した包括モデルによる検討－名古屋市立大学学位論文(甲第1710号(第29号)).
- Barley M., & Ferrie J.(2001). Glossary: Unemployment, Job Insecurity, and Health: *Journal of Epidemiology and Community Health*, 55, 776-781.
- E-COCO-J(2020). コロナ時代の新しい気づきや生活・行動・仕事の変化について
<https://plaza.umin.ac.jp/heart/e-coco-j/05.shtml>(2022年1月4日)
- E-COCO-J(2020). コロナ禍で在宅勤務を経験した労働者が、リモート環境下でのハラスメント(リモハラ)を経験した割合とその内容
<https://plaza.umin.ac.jp/heart/e-coco-j/04.shtml>(2022年1月4日)
- E-COCO-J(2020). 職場でのコロナハラスメントの頻度およびその関連要因
<https://plaza.umin.ac.jp/heart/e-coco-j/09.shtml>(2022年1月4日)
- Gajendran R.S., & Arrison D.A.(2007). The good, the bad, and the unknown about telecommuting: meta-analysis of psychological mediators and individual consequences. *Journal of Applied Psychology*, 92, 1524-1541.
- 原泰史・今川智美・大塚英美・岡嶋裕子・神吉直人・工藤秀雄…HR総研(2020). 新型コロナウイルス感染症への組織対応に関する緊急調査－第一報－, *Institute of Innovation Research, Hitotsubashi University*, (No. 20-10).
- 平野孝典(2019). 若年非正規労働者の自殺リスク－ウェブ調査の基礎的分析から－ 桃山学院大学総合研究所紀要, 45, 15-33.
- 堀田裕司・大塚泰正(2014). 製造業における労働者の対人的援助とソーシャルサポート, 職場ストレスナー, 心理的ストレス反応, 活気の関連 産業衛生学雑誌, 56, 259-267.
- 井上まり子(2015). 非正規雇用とストレス 丸山総一郎(編) ストレス学ハンドブック (pp.439-449) 創元社
- 井上まり子・錦谷まりこ・鶴ヶ野しのぶ・矢野栄二(2011). 非正規雇用者の健康に関する文献調査 産業衛生学雑誌, 53, 117-139.
- 岩根幹能(2021). 新型コロナウイルス感染症の現況, コロナ禍の新しい働き方と新たなストレス 関西福祉科学大学 EAP 研究所紀要, 15, 1-8.
- 川上憲人(2009). 労働者のメンタルヘルス不調の第一次予防の浸透手法に関する調査研究, 平成23年度厚生労働省厚生労働科学研究費補助金労働安全衛生総合研究事業総括・分担研究報告書
- 切明那々子(2019). 非正規と正規雇用者のキャリア自律とメンタルへするに関する比較 桜美林大学修士論文, 未公刊.

- 厚生労働省(2012). 労働契約法改正のポイント
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/keiyaku/kaisei/dl/h240829-01.pdf(2022年1月4日)
- 厚生労働省(2014). 派遣労働者・労働者の皆さまへ
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/haken-shoukai/kaisei/dl/03-08.pdf(2022年1月4日)
- 厚生労働省(2019). 平成30年「労働安全衛生調査(実態調査)」の概況
https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/h30-46-50_gaikyo.pdf(2022年1月4日)
- 厚生労働省(2020). 雇用形態に関わらない公正な待遇の確保
<https://www.mhlw.go.jp/content/000816781.pdf>(2022年1月4日)
- 厚生労働省(2020). 非正規雇用の現状
<https://www.mhlw.go.jp/content/000679689.pdf>(2022年1月4日)
- 厚生労働省(2021). 令和2年中における自殺の状況
https://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/jisatsu/R03/R02_jisatuno_joukyou.pdf
(2022年1月4日)
- 厚生労働省(2021). 新型コロナウイルス感染症に起因する雇用への影響に関する情報について
(12月10日現在集計分)
<https://www.mhlw.go.jp/content/11600000/000865790.pdf>(2022年1月4日)
- 松田茂樹(2004). 雇用不安が生活に与える影響－勤め先の業績、終身雇用、生活設計、ストレス－ ライフデザインレポート, 163, 16-23.
- 松田茂樹(2012). 職場の一体感とワーク・ライフ・バランス *Life design report*, 202, 28-35.
- 松山一紀(2010). 非正規労働者の職務態度とメンタルヘルス *経営行動科学*, 23, 107-121.
- 大竹文雄(2000). 雇用不安をめぐって 季刊・家計経済研究, 2000 秋号, 13-21.
<http://www2.econ.osaka-u.ac.jp/~ohtake/paper/koyofuan.pdf>(2022年1月4日)
- 大瀧英樹(2019). 正規労働者のメンタルヘルスに影響を与える職場の要因 *生活経済学研究*, 49, 75-89.
- 労働政策研究・研修機構(2012). 日本の雇用終了－労働局あっせん事例から JILPT 第2期プロジェクト研究シリーズ, No4.
- Ruffolo M., Price D., & Schoultz M.(2021). Employment Uncertainty and Mental Health During the COVID-19 Pandemic Initial Social Distancing Implementation: a Cross-national Study. *Global Social Welfare*, 8, 141-150.
- 櫻木晃裕(2006). 職務満足概念の構造と機能 *豊橋創造大学紀要*, 10, 37-47.
- 佐々木那津・川上憲人(2021). 新型コロナウイルス感染症流行と労働者の精神健康, 総説 *産業医学レビュー*, 34, 17-50.
- 島津明人(2017). 健康でいきいきと働くために－ワーク・エンゲイジメントに注目した組織と個人の活性化 *心理健康科学*, 13, 20-22.

- 下島敦(2021). 雇用者数の動向にみる新型コロナウイルス感染症の影響
<https://www.jil.go.jp/tokusyu/covid-19/pt/docs/210407pt-report.pdf> (2022年1月4日)
- 下光輝一(2010). 職業性ストレス簡易調査票の事業場における活用状況と課題に関する研究労働者のメンタルヘルス不調の第一次予防の浸透手法に関する調査研究, 35, 13-1.
- 総務省(2021). 労働力調査(基本集計)
<https://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/pdf/gaiyou.pdf> (2022年1月4日)
- 周燕飛(2020). 新型コロナウイルスと雇用・暮らしに関するNHK・JILPT共同調査結果概要－女性の厳しい雇用状況に注目して－
<https://www.jil.go.jp/tokusyu/covid-19/collab/nhk-jilpt/docs/20201113-nhk-jilpt.pdf>
(2022年1月4日)
- 高橋美保・森田慎一郎・石津和子(2014). 正規雇用・非正規雇用・完全失業者のメンタルヘルスの比較検討－就労状況に対する自発性とキャリア観に注目して－ 日本労働研究雑誌, 650, 82-96.
- 高橋康二(2021). コロナショックと非正規雇用者－2020年夏までの状況を中心に－ *JILPT Discussion Paper*, 21-04.
- 高橋祥友(2014). 自殺の危険 第3版 －臨床的評価と危機介入 金剛出版
- 高見具広(2021). 新型コロナウイルスの感染拡大が日本の雇用労働にもたらしている影響－労働時間の変動と格差を中心に－ JILPT レポート
https://www.jil.go.jp/foreign/report/2021/pdf/21-03_06.pdf (2022年1月4日)
- 堤明純・井上彰臣・島津明人・高橋正也・川上憲人・栗岡住子…戸津崎貴文(2015). 労働者の収入とメンタルヘルス－職の不安定性による媒介効果に注目して－ 厚生指標, 62(11), 1-8.
- 山本勲(2011). 非正規労働者の希望と現実－不本意型非正規雇用の実態－ *RIETI Discussion Paper Series*, 11-J-052.
- 山本勲(2010). 正規・非正規雇用間格差の発生と健康状態への影響 樋口美雄・宮内環・McKenzi C.R.(編) 貧困のダイナミズム――日本の税社会保障・雇用政策と家計行動 (pp. 133-151) 慶應義塾大学出版会
- 矢野栄二・井上まり子(2011). 非正規雇用と労働者の健康 労働科学研究所出版部
- 吉野聡(2018). いざ実践! ストレスチェック8 産業保健 21, 92, 20-21.
- 吉岡瞳(2014). 派遣労働者におけるワーク・エンゲイジメントと職業性ストレス諸要因の関連－派遣労働者を選択した理由別による検討－ 大阪経大論集, 65(3), 151-156.